

巻 頭 言

図書館への招待状

学生も教員も、大学図書館の前を行き交うことが多い。西宮上ヶ原キャンパスでは、各学部の建物が囲む芝生の先端に図書館があるので、その中に入って利用するときだけでなく、授業でそれぞれの建物に向かう時に通ることもある。今は時計台の後ろに図書館が建っているが、15年前までは、時計台の建物そのものが図書館であった。

その置かれている位置が意味しているのは、図書館が大学の教育・研究の要であるということだろう。こうした大学における図書館の物理的位置と機能の連関は基本的には今日でも変わっていない。

だが、この15年間でしだいに学生の読書の質が変わり、書籍の出版環境も変わり、それにとまって、大学における図書館の果たすべき役割も大きく変化してきている。

書棚に多数の書籍を並べ、その中から皆さんの勉強や研究に必要な書籍を提供するのは、今も図書館の主要な役割だ。だが、それが紙の本だけでなくなくなっている。ホームページから世界のデータベースや電子ジャーナルを利用できることも、図書館の主要なサービスのひとつになった。近年では、国内外で電子出版のことが話題になっており、まだそれらの中には大学図書館が扱うべき学術的な出版物は少ないが、いずれはiPadのようなタブレット端末から動くコンテンツを読んでもらうということも大学図書館の姿になるだろう。

こうした近未来に向けての図書館の役割の変化を先取りして、本学図書館も日々、学生、教員の方々の潜在的なニーズを掘り起こし、それを実現することに、館員一同が努めている。また、図書館がすでに行っているサービスでも、皆さんに十分浸透していないこともあるので、様々な機会をとらえて、お知らせしている。

次の段階では、多数の書籍を並べてその利用を待つのではなく、図書館が率先して皆さんの教育・研究をより積極的に支援できるような「場」に進んでいくべきだと考えている。今でも、そのようなサービスは様々な展開しているのだが、それをより広く知ってもらおうとともに、さらにICTのより積極的な利用で、「場」の可能性は広がっていくだろう。

今後とも、学生や教員の皆さんにとって、なくてはならない図書館でありたい。皆さんも、図書館の前を通るだけでなく、図書館のなかに入って書棚から自分の関心にあった本を手にとってみてほしい。

大学図書館長 奥野 卓司